

遊びと学び をつなげよう



幼児期の教育と小学校教育の 育ちをつなぐ幼小接続事業

ぴかぴかの1年生への期待を、自信や意欲につなげたい。そのために、保育園・幼稚園での生活や遊びが、小学校生活にどのようにつながっていくのかを明らかにし、幼児期の教育が小学校教育に発揮されるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、育みたい力を園と小学校で共有していきました。そして、生活する力、関わる力、学ぶ力の3つの視点から、保・幼・小で話し合いを重ね、接続期のカリキュラムの作成に取り組んできました。

これらの成果を、教育課程の編成や実践の中で活用し、多くの子どもの笑顔につなげていきたいと思えます。

生駒市教育委員会
生駒市立壺分小学校
生駒市立壺分幼稚園
社会福祉法人晋栄福祉会いちぶちどり保育園

『遊び』と『学び』をつなげる 交流活動の流れ

背景

吾分小学校区では、公立校園での交流は行われてきたが、地域の保育園と交流する機会は少なかった。「幼小接続」にあたっては、地域の保育園・幼稚園・小学校が共に子どもの育ちを見つめ合い、連携を深めていくことが望まれる。これらを踏まえ、3校園の教職員が連携し、子どもたちにとって楽しい交流活動を計画するとともに、保、幼、小の接続が今後も継続していくことができるよう、カリキュラムの編成について研究・協議していきたく考えた。

取組の方向性 ~交流の充実とカリキュラム構築について~

- ①3校園が交流活動のねらいを出し合い、育てたい姿や子どもの学びを共通理解する。保幼小それぞれの環境の違いを理解し合いながら、教職員同士の連携を深め、お互いに実りのある交流活動を進めていく。
- ②接続期の子ども育ちや生活上の課題について協議し、それらを踏まえて、アプローチ・スタート期の終わりに育ってほしい力を3つの視点（自主性・主体性、コミュニケーション力、からだづくり）として洗い出す。これらの視点をもとにした活動を積極的に活動の中に取り入れ、学びにつながる力の育成を図る。

自主性・主体性

☆みんなで交流しよう

(鬼ごっこ・校内めぐり)

○活動のねらい

幼稚園・保育園

- ・1年生に親しみを持ち、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- ・校舎見学を通して小学校に関心をもつ。

小学校

- ・学校の施設に関心を持ち、幼児と一緒に楽しく遊ぼうとする。
- ・幼児のことが分かり、自分との関わりに気付く。



○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・初めての環境でも1年生がペアを組んで一緒に過ごしてくれたことで安心感をもって活動に臨むことができた。

小学校

- ・鬼ごっこでタッチされた幼児を助けてあげたり、優しくタッチしたりするなど、幼児を気遣う姿が見られた。

◎成果

- ・初めての出会いの場を小学校で行い、遊具で遊んだり石木鬼をしたりして遊ぶことができた。1年生は自信を持ち、幼児は学校への関心を寄せながら、活動を楽しむことができた。今後のつながりをもつよい機会となった。

☆みんなで水、砂、泥遊びをしよう

(泥団子・シャボン玉・色水・砂場)

○活動のねらい

幼稚園・保育園

- ・水や砂、土、泥などの感触を味わい、1年生と一緒に試したり工夫したりして遊ぶことを楽しむ。

小学校

- ・夏の遊びに関心を持ち、幼児と仲良く遊ぼうとする。



○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・毎日の遊びの経験を生かし、自分たちで遊びを進め、自信をもって遊び方を伝える姿があった。
- ・遊びの中で様々な感触を味わい、夏ならではの遊びを楽しんでいた。

小学校

- ・ペアになった幼児とコミュニケーションをとり、遊ぶ順番や遊び方を決める姿が見られた。
- ・様々な素材に触れ、夏の遊びを楽しむ姿が見られた。

◎成果

- ・3校園で夏の遊びを開放的に遊ぶ中で、自分のやりたいことや、ペアの子がやりたいことに耳を傾けながら、一緒に活動をする楽しさを共有できた。

☆みんなで秋の自然探しをしよう

(地域の公園で一緒に遊ぼう)

○活動のねらい

幼稚園・保育園

- ・秋の自然に関心を持ち、1年生と一緒に自然物を集めて遊ぶことを楽しむ。

小学校

- ・幼児と一緒に秋の自然物を見付ける。

○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・1年生と共通の目的をもって自然物探しを十分に楽しんだ。
- ・活動の振り返りでは、自分なりの言葉で気持ちを伝える姿があった。

小学校

- ・秋の自然物を探す中で、自分の知っていることを幼児に教えている姿があった。
- ・木の実などを幼児と見合っ楽しんで会話をすることが見られた。

◎成果

- ・3校園での交流に慣れ、1年生を頼りにしながら協力して活動ができた。グループで同じ目的に向かって活動することで子どもたちが互いに声をかけ、一緒に行動しようとする意識が芽生えた。



☆なかよしあきまつりをしよう

○活動のねらい

幼稚園・保育園

- ・秋の自然物を使って1年生と遊んだりお店巡りをしたりすることを楽しむ。

小学校

- ・秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付くことができる。



○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・1年生が考えた遊びを存分に楽しみ、繰り返し挑戦し、遊び込む姿があった。
- ・案内係の1年生を頼りに、お店屋さんを仲良く巡ることができた。

小学校

- ・幼児が楽しめるような表示やルールを工夫する姿が見られた。
- ・幼児の思いを聞いたり、おすすめのお店に案内したりして楽しませようとしていた。
- ・保幼小それぞれが用意したどんぐりゴマと一緒に遊ぶことができた。

◎成果

- ・前回の交流で集めた自然物を生かし、つながりのある活動になった。1年生は、幼児の立場になって遊びやルールを考え、幼児は交流を楽しみにどんぐりゴマを作るなど、交流当日以外にも、それぞれが一緒に創り上げていく交流活動になった。



交流活動の成果~3つの視点から~

◎幼児は季節の遊びを1年生と一緒にしたり、小学校で遊んだりすることを重ねる中で、不安なく安心や期待をもって活動できた。また1年生は生活科を通じた交流活動で、見る・触れる・作る・探す・遊ぶといった学習活動をすることで、自分で考えたり振り返ったりする主体的な姿が見られるようになった。

◎1年生と幼児のペアに最初は緊張感をもつ姿もあったが、一緒に遊ぶ交流をする中で、互いに名前を呼び合ったり、遊び方を教えたりする関わりが変わっていった。活動後の振り返りの場では、感じたことや考えた事を自分なりの言葉で伝えようとするようになった。

◎からだづくりの視点から交流内容を計画し、遊びの中で体を動かして楽しむことができた。小学校、幼稚園、地域の公園など、交流の場まで歩いて行き、一緒に遊ぶ活動を楽しむことができた。

☆次年度以降への課題

- ・交流当日だけではなく、3校園がそれぞれ主体的に参加できる形の活動を取り入れていくことや、子ども同士の関係づくりをさらに深められるような遊びの「しかけ」を、実践を通して取り入れていきたい。

からだづくり

教職員連携

☆教職員打ち合わせ

- ・保幼小接続に向けた研究視点を検討する。
- ☆年間交流計画策定
 - ・保、幼、小の3校園での日程調整、交流内容の検討を行う。

☆交流後の振り返り・協議

- ・幼児と1年生の関わりに着目し、自然な形で一緒に遊ぶ内容を検討する。
- ☆次回交流について
 - ・ねらいと経験させたい内容の共通理解を図る。



☆交流後の振り返り・協議

- ・遊びでの子どもの気付きや学びを見取り、意見交換をして理解を深める。
- ・子どもたちが自身が活動を振り返り、自分の思いを言葉で表す場を設定する。
- ・3校園混合グループ活動を検討する。
- ・事前の下見を共に行う。

☆交流後の振り返り・協議

- ・自然物を生かしたつながりのある交流活動を検討する。
- ・招く／招かれるだけの交流にならないよう、保幼小それぞれの子どもたちが活動に主体的に参加できるような遊びの「しかけ」を設定する。
- ・1年生と幼児のペアのあり方について、次年度以降の交流に向けて協議する。

☆教職員連携による成果と課題

- ・子どもたちが主体的に活動し、互いの仲を深めてほしいという思いで保幼小の教職員が一体となってスタートした取組であった。育てたい子ども像を共に描き話し合ったことで、交流を深める「しかけ」となるアイデアが生まれた。次年度以降も継続的に取り組むことができるカリキュラムの作成を目指して、教職員同士の連携を深めていきたい。

<5歳児> 11月 12月 1月 2月 3月 卒園 入学<1年生> 4月 5月

育てたい姿

具体的な手立て

育てたい姿

具体的な手立て

生活する力

- ・見通しをもち、進んで行動できる子
- ・身の回りのことを自分でできる子

関わる力

- ・自分からあいさつできる子
- ・気持ちのよい聞き方や話し方ができる子
- ・様々な人との触れ合いを楽しむ子

学ぶ力

- ・様々な方法で表現できる子
- ・身近な環境との関わりに気づく子
- ・新しいことを知るのに意欲的な子
- ・友達と体を動かす中で元気いっぱい活動できる子
- ・友達と一緒に音楽に親しむ子

- ◎交通ルールを知り、安全に行動しようとする。
- ◎園生活に見通しをもち、進んで活動に取り組む。
- ◎手洗いやうがいの大切さを知り、進んでしようとする。
- ◎時間を意識し、行動しようとする。
- ◎友達や教師の話に、興味をもって聞く。
- ◎遊びや活動の準備や片付けを、自分達で分担して行う。
- ◎友達と一緒に楽しく食事をする。

- ◎よいことと悪いことの区別がわかり、自分で考えて行動する。
- ◎身近な人に進んで挨拶をする。
- ◎相手や状況に応じた話し方ができるようになる。
- ◎経験したことや考えたことを伝え合う楽しさを味わう。
- ◎共通の話題について話し合うことを楽しむ。
- ◎異年齢児や異校種での交流、地域の方など、様々な人との触れ合いを楽しむ。

- ◎戸外で体を動かし、いろいろな運動遊びを楽しむ。
- ◎一つのことに繰り返し挑戦し、じっくりと取り組む。
- ◎自然の変化に気づき、不思議なことや感動したことを伝え合い、共感しあう。
- ◎栽培物の成長に関心をもち、世話をしたり収穫を楽しんだりする。
- ◎身近な生き物に親しむ中で、命の尊さに気付く。
- ◎文字や数量・図形に関心をもち、生活や遊びの中に取り入れて楽しむ。
- ◎絵本や物語の世界を楽しみ、感動を味わったり、イメージを豊かにしたりする。
- ◎描いたりつくったりすることを楽しみ、それらを遊びに使ったり、飾ったりする。
- ◎音楽に合わせて歌ったり楽器を演奏したりする楽しさを味わう。

- ・スケジュールボード、カレンダーなど、活動に見通しがもてるような掲示をする。
- ・片付けの合図を音楽で知らせたり、時計を使って目安を知らせたりする。
- ・活動の前に排泄を済ませる習慣をつける。
- ・集中して話が聞けるよう、視覚的教材などを活用する。
- ・自分達で準備や片付けがしやすいように、環境を整える。
- ・苦手な食べ物を食べようとする姿を、認めたり励ましたりする。
- ・一定時間で食事をとる機会を積み重ねる。

- ・きまりの必要性に気づき、友達との関わりの中で、自分の気持ちを調整する体験を大切にする。
- ・当番の仕事に取り組む姿を見守り、仕事内容の表示や必要に応じて助言や援助をする。
- ・挨拶を交わす心地よさや大切さが味わえるような雰囲気をつくる。
- ・自分の思いや考えを話したり、友達の考えを聞いたりするような、話し合いの場面を毎日の保育に取り入れる。
- ・いろいろな人と関わる心地よさや親しみの気持ちが感じられるような、交流のもち方を工夫する。

- ・戸外でルールのある遊び（おにごっこ、ドッジボールなど）をする。
- ・自分なりの目標を立て、縄跳びや鉄棒に繰り返し挑戦する姿を認め、励ます。
- ・栽培活動を通して、生長過程に興味をもち、収穫や食べる経験を通して、食育につなげる。
- ・飼育を通して、生き物を育てる大切さや命の尊さを友達や保育者と共有する。
- ・カルタやすごろくなどの正月遊びや様々な遊びの中で、読んだり、書いたり数えたりすることを楽しくめるようにする。
- ・クラスの友達と、絵本や物語を楽しんで聞く機会を継続してもつ。
- ・いろいろな方法で表現したりできるような環境を整える。
- ・友達と気持ちを合わせて歌ったり合奏したりする心地よさや一体感を味わえる機会をもつ。

幼児期の
終わりまでに
育ってほしい姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範
意識の芽生え

社会生活
との関わり

思考力の
芽生え

自然との関わり
・生命尊重

数量や図形、標
識や文字などへの
関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感
性と表現

- ◎ルールを知り安全に登下校する。
- ◎学習に必要なものを準備したり、片付けたりできる。
- ◎トイレ・手洗い場の使い方を知り、正しく使える。
- ◎チャイムに合わせて遊びと学習を切り替えられる。
- ◎授業中に椅子に座って話を聞く姿勢を維持する。
- ◎集団行動・移動・整列ができる。
- ◎友達と一緒に給食を食べる楽しさを味わう。

◎大切なきまりや約束を守る。

◎当番活動や係活動などに責任をもち、協力して自ら取り組める。

◎進んであいさつができる。

◎相手にとって気持ちの良い話し方や聞き方ができる。

◎友達と仲良く遊んだり活動したりする。

◎異学年の児童や学校で働く人達について知ろうとする。

◎いろいろな運動に楽しみながら取り組む。遊具の安全な使い方を守る。

◎植物を一人一人が主体的に育てることや、虫などに触れ観察することなどによって得られる、感動体験を味わう。

◎学校の施設について知り、学習と遊びを行う環境についてより詳しく学ぼうとする。

◎生活・学習場面で文字や数に触れ、その意味や書き方を知る。

◎自分の思いが相手に伝わるように表現する。

◎読書による楽しさを味わう。

◎はさみ・のり・テープなどの用具の特性や使い方を知り、つくったり描いたりしたものを友達や家の人に紹介する楽しさに気付く。

◎友達と一緒に曲を歌ったり、リズムを楽しんだりして音楽に親しむ。

- ・下校指導を重点的に行う。公園探検の際、標識や道路の渡り方などについて話をする。
- ・準備する順番や内容がわかるものを掲示する。
- ・担任から正しいトイレの使い方を説明する。

- ・授業5分前からの音楽に合わせ、終わるとともに着席するよう指導する。
- ・短時間の学習を組み合わせるなどして、集中できるようにする。合言葉を伝えたり、絵を掲示したりする。
- ・場面に応じた集団行動ができるよう声かけをする。
- ・給食を増やしたり減らしたりできる時間を設けて、丁度よい量を見つけさせる。班で給食をとる。給食に関わる場所や人を紹介する。（給食センターやそこで働く人達、学校の給食委員を担当している上級生など）

- ・校内探検で上級生が授業を受ける様子を見る。困ったら教員に相談することを教え、促す。
- ・映像や絵などを提示し、活動に見通しがもてるようにする。当番をする時間を十分にとる。上級生に掃除の仕方などを教えてもらう。

- ・授業のなかで繰り返し行う。前向きな声掛けをする。
- ・朝に10分ほどのスピーチの時間を取り、日々繰り返すことで気持ちのよい話し方や聞き方を目指す。
- ・2人などのペアから、徐々にグループでの活動を増やしていく。異年齢集団と交流する時間を設ける。
- ・校内探検を2年生と行う。学校に関わる人達や道具・施設などについて興味をもったことを児童に尋ねる。

- ・ルールのある遊び（おにごっこなど）を授業に取り入れる。のり棒・うんてい・鉄棒などのルールを児童と確認し合う。
- ・2年生と一緒に朝顔の種を植える経験をさせる。一人一人が進んで水やりなどをするよう、促す。公園に行き、春の草花を見つけたり虫を捕まえて遊んだりする中で、出てきた気づきを発表させる。

- ・初めの校内探検で気になった場所や物を聞き、再度出向いて観察したり、関係する人に尋ねたりさせる。
- ・文字や数量、図形などへの関心が深まる遊び（トランプなど）が休み時間に気軽にできる環境を整える。数が関わる遊びを授業に取り入れる。
- ・児童が好きなことや、伝えたいと思うことを聞き取り、絵で表現させたり、人前で発表する機会を設けたりする。
- ・担任による普段の読み聞かせと司書教諭による読み聞かせの時間をとる。朝の読書の時間を全学年で行う。
- ・用具の特性や使い方を教えるとともに、作ったものを活用して交流する機会を設ける。
- ・幼稚園や保育園で歌ってきた歌を学級内で共有し、児童が初めての授業にも楽しんで取り組めるようにする。

学びの芽生え

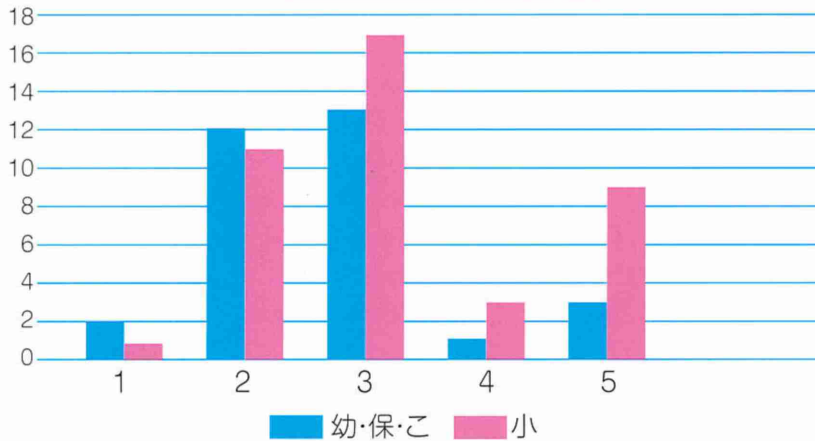
自覚的な学び

人とのかわりを大切にし、自分で考え行動できる生きる力をもった子ども

生駒市教育委員会夏期研修会アンケート集計結果から

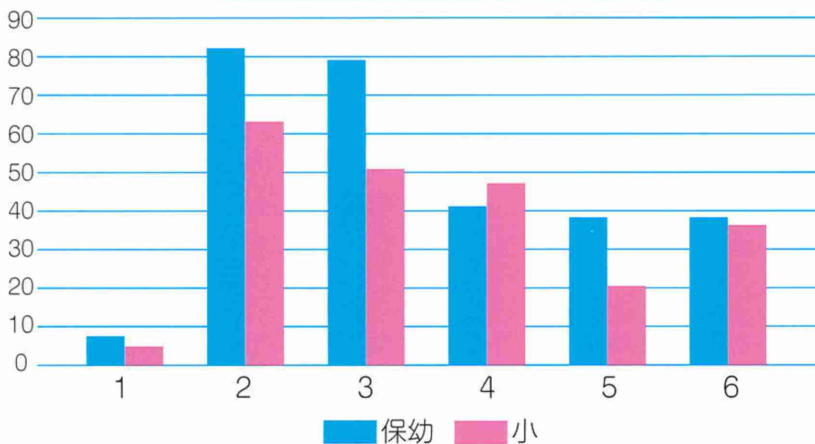
市内約90名の保育園、幼稚園、こども園、小学校の先生方にご回答いただきました。

幼小接続の段階



- 1段階** 連携について検討中である
- 2段階** 交流会は数回実施しているが、教職員間での話し合いや振り返りなどは実施していない
- 3段階** 交流会や職員間交流などが計画的に実施されているが、カリキュラムの作成は行われていない
- 4段階** 交流会や職員間交流などが計画的に実施され接続期を見通したカリキュラム作成に向けて進めている
- 5段階** 接続を見通して実践結果を検証し、よりよい接続期のカリキュラム作成に取り組んでいる

校種別交流に対する意識



- ①保幼小接続をどう進めていいかわからない。
- ②保幼小の接続は大切だと思う。
- ③保幼小接続を進めることで子どもの様子に変化、成長があると思う。
- ④保育園・幼稚園と小学校の職員間の交流や打合せを行うことは大切である。
- ⑤交流していく中で交流の事前、事後の話し合いの時間を作っている。
- ⑥アプローチ・スタートカリキュラムがあれば活用したい。

生駒市の今後の課題

- モデルの接続カリキュラムを自校園独自のものとして実態に合わせてうまく活用できるか。
- まだ連携、交流を検討中の校園に対してどのように幼小接続を進めていくか。
- 教科指導や行事等に追われて交流をより進めていくための事前、事後の打合せの時間をどう捻出していくか。



- 合同研修会で保・幼・こども園・小の職員がともに子どもの見方などについて意見交換をし理解を深める。
- 地域の保・幼・こども園が公私立を問わず、つながって校区の小学校と交流する体制づくりを進める。